NO. 195　4月号

FOREST NEWS

広げよう
地球と命を守る
森づくり運動

2024年度　指標

①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
②国内において累計５００本の植樹活動
③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
④セミナーを通じて植樹活動の啓蒙
⑤他団体との連携

NPO法人　地球の緑を守る会　　発行人　高津啓洋
〒121-0072東京都足立区保塚町１－６　　Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://midori.mond.jp/

理事長メッセージ

パンタナール植樹
プロジェクト　フェーズII

潜在自然植生を植樹する

潜在自然植生というのはその土地本来の木という意味です。日本では北海道、東北地方、信州の山地ではブナ、ミズナラ、カシワ、カエデなどの冬になると葉を落とす落葉広葉樹です。
関東地方から南の地域になると1年中緑の葉が繁る常緑広葉樹の森が広がっています。たとえば海岸沿いのエリアならタブノキ、尾根筋はシキノキ、内陸部ではアラカシ、シラカシなど。 この潜在自然植生が、レダ地域を含むパンタナールではケブラッチョ、パロサント、パラボラーチョ、ラパーチョ（イペー）などです。
当法人は、現地においてこれまで主にニームの木を原住民の村に街路樹として、また熱帯特有の暑さを防ぐ庇陰樹（木陰をつくるための木）として植えてきました。 ニームのはインド原産の薬効をもつ有用植物で 荒地や乾燥地でもよく育ち、おまけに成長も早いため世界の至るところで植えられてきました。
しかし、レダ地方の潜在自然植生ではない、いわゆる外来種なのでよく育つけれど長持ちしません。 そこで、今後はパンタナールの本来の森を再現・創造する目的でケブラッチョやアルガロボ、ラパーチョの親木から種を採取し、ポット苗を生産するプロジェクトを開始しました。
成木になった個体自体は百数十年で寿命が尽きても、後継樹が次々と成長し、世代交代を繰り返しながら次の氷河期が来る9千年まで持続するというわけです。

理事長メッセージ

そうなれば従来"不毛の地"として見捨てられていたレダを含む広大なチャコ地方が肥沃な土地に生まれ変わるということです。 このように潜在自然植生は地震、津波、洪水、火災など突然襲う災害に耐えて生き残り、私たちのいのち・こころ・遺伝子を守ってくれます。このような森を植物生態学の立場からわかりやすく"ほんものの森"といっているわけです。（高津）

苗木の数を数えました❗
アルガロボ238本とその他の木を足すと1267本になりました。ブラチョ以外アルガロボ238鉢、ラパチョ128鉢、雑木のネムノキ95鉢と
近くの木から採集した種で作った苗木があります。（大元）

募集！！

2024年８月～９月、パラグアイの植樹ボランティアを募集しています。関心のある方は事務局まで連絡ください！

今月のトピック

国内活動

３月２９日、緑の会会員有志が2007年に地球の緑を守る会で、ボット苗を育て植樹しました東京都海の森公園を訪問しました。当時植樹したボット苗がこんな大きくなっていました。

YouTube　チャンネル
植樹のギモン答えます

植樹活動に対する関心や理解が深まる「植樹のギモン答えます」
高津理事長が軽やかに質問に答え、植樹と自然環境の関係をより身近に感じられます。これからも植樹活動に関するさまざまな疑問や興味深い話題を取り上げていきます。より多くの人々が植樹の重要性を理解し、積極的に参加するきっかけとなることを目指します

《質問１》
森が火災から人間を守るって本当？